

りびんぐらいぶず 令和2(2020)年2月第2号

実践運動重点目標(同行方針)の計画

令和二年実践運動重点目標一 お聴聞を通じて和やかなコミュニティを実現します。

a)お聴聞はメディテーション(瞑想)をお聴聞の会で体験します。

b)ウェブサイト正覚寺で人々の繋がりを実現します。

同実践運動重点目標二 ダーナ(布施)(子供達を育む、災害支援他)を実践します。

同実践運動重点目標三 宗門のリスクと機会への取組みを実践します。

a)伝道最前線の活性化に取り組みます。

b)“門徒推進員の誕生”を切に念じます。

c)無量寿経勉強会(広大会)を実践します。

d)伝道教学を鍛え上げ・見える化します。

実践運動重点目標一

“和やかなコミュニティ”の実現は、“お聴聞を通じて”が、具体的手段であります。

お聴聞の会は、毎月、仏教壮年会及び仏教婦人会で開催しています。あとは、お一人でも多くの方々にお運び戴く事が求められております。

去る二月二十九日の永代経、前々坊守の五十回忌には、賑やかに御門徒様にお参り戴きました。有り難うございました。

参考までに、組内のT寺様では、区内は町毎の御門徒さんのご自宅を毎年持ち回り報恩講お聴聞の営みを続けていらっしゃいます。

a)メディテーション(瞑想)は、海外異教徒・異民族の皆様が仏教に対して懐いていらっしゃる関心事であります。尚、メディテーションは、仏教用語では、三昧(ざんまい)に当たります。

異教徒異民族から関心を懐かれる仏教は、

第一に、南伝仏教(上座部仏教)のマインドフルネス メディテーションであり、

第二・第三に、鈴木大拙によって北米に伝えられた禅宗があり、近頃は、神秘性が興味を引くチベット仏教であると云われており、その次が、団扇太鼓の日蓮宗だと聞かされます。

これに対して浄土真宗は、後塵を拝していると云われています。

この傾向は、プラクティスという側面から仏教の魅力を語った場合であります。

なぜこうなったかは、浄土真宗、特に西では、三業惑乱後に、信心正因 称名報恩の御常教が宗学を席卷し、自力を極端に廃したことに基づくかと窺われます。

実践運動重点目標三の観点からこの課題を採り上げてみた場合、決して打開策がない訳ではありません。

要は、宗門運営も宗学もISOに習って“リスクと機会”の観点から、考え方を刷新してみる勇気がなくてはなりません。宗門内で打開策の提案があったとき、権威を振りかざしてこれを押し潰さんとする姿勢では話にならず、ロジカルに教学を鍛え直さんとする勇気が大事になってくるのではありませんか。

コミュニティとしての強みについては、北米オレンジ郡仏教会では、浄土真宗の強みを“ファミリーフレンドシップ ブッディズム”にあると云われています。

“ファミリーフレンドシップ ブッディズム”の実践例を見ますと、幸い、地域では花祭りがあり、当正覚寺では年に一度の営みですが、五月中旬に営む“降誕会(ごうたんえ)”が広く地域内に溶け込み子供たちのコミュニケーション力に助られて当日の参加者が募られています。

b)ウェブサイト正覚寺は、古典的なホームページのままですが、十年来の実績を残しています。プラクティカルな教学の開発実績は、その都度の成果として公開しております。

今後の課題は、住職の懐く問題意識と構築論理に対して、外部社会からの建設的なご意見ご提案もお受けしたいところでありまして、御門徒さんのお取組みの内容もご紹介戴けると有り難いところです。

重点目標二 母子生活支援施設への寄付

当院では、仏婦さんの伝統的なお取組みを宗門のお取組みに統合して運用しています。

今年は九月十六日(水)に当院で滋賀組仏教婦人会の実践運動の成果が纏められる予定である他、集まり次第、大津市の母子生活支援施設に寄付支援する計画であります。

重点目標三 宗門のリスクと機会への取組

c)無量寿経勉強会(広大会)の五年来の実践は、基本に立ち返り、大経の構造から各御文の詳細に亘ってご指導に与っております。

晩年に至って、基本に立ち返ってする学習には驚きがあり、新たな発見に眼(まなこ)が輝や

いて下さいます意。

d)“伝道教学”を鍛え上げ、見える化します。

伝統宗学の特徴は、お救いは何事も如来様の一人働きであるから(そのこと自体は正しくとも)、自ら努めることには、自力排除の観点からこれを許さないとする見方があるかと窺われますが、これは伝道上、大きな疑問が観ぜられる重大課題であります。

『尊号真象銘文』「第一条」に「至心信楽」は、凡夫自力のころにはあらずと押さえた上で「欲生我国」といふは、他力の至心信楽のころをもつて、「安楽浄土に生まれんとおもへとなり」と仰せ下さっているのですから、行動プラクティスそのものが否定されているものではないからであります。

因みに「六字釈」は、『行巻』では、善導大師の玄義分の六字釈の御文の語義解釈から掘り起こして如来様の側からの働きの解釈(法体釈)がなされているのに対して、『銘文』では、これを衆生の側から頂戴する仕方でご解釈(約機釈)がなされているのであります。

このような構造解釈が本来親鸞聖人の教学の尊い方法論であると見ることができます。

他に、「往観偈」は「破地獄の御文」を拝読致しますと、「聞名欲往生」の「欲往生」といふは安楽浄刹に生まれんとおもへとなり。とあり、「皆悉到彼国」といふは、御ちかひのみなを信じて生れんとおもふ人は、みなもれずかの浄土に到ると申す御(み)ことなり (Ref 註釈版聖典 p645 『銘文』第二条) とある御言葉に照らしますと、「如来様が「うまれたいとおもへ」とおっしゃって下さるのだから、如来様の御言葉通りに「生まれようと思う人は生まれることができる」と示されていることがわかります。

b)最後に当院では、未だに門徒推進員が誕生しておりません。ついては、総代様方、連研修了の皆様方の御熱意に訴え、中央連研御受講を切に念願するところであります。合掌。

仏教壮年会お聴聞の会 三月八日(日)二十時～
仏教婦人会例会 三月十六日(月)十九時半～
彼岸会法要 三月十八日(水) 十四時、十九時半
著作編集兼発行元(本願寺派 正覚寺内) 〒520-0501 大津市北小松四五二番地
077-596-0166、FAX077-596-0196 住職 堅田 玄宥